

ユニバーサルデザインポロシャツに関する研究－Ⅲ

小 山 京 子

美作大学・美作大学短期大学部紀要（通巻第53号抜刷）

報告・資料

ユニバーサルデザインポロシャツに関する研究－Ⅲ

A Study of Universal Design Polo Shirt -Ⅲ

小 山 京 子

キーワード：ユニバーサルデザイン、ポロシャツ、袖丈

緒 言

高齢者人口が急激に増加しているわが国において、高齢者が自立して心身ともに健康で生きがいのある豊かな生活を送ることは、いまや大きな課題となってきた。その多くの要件の中で、健全な衣生活を送ることは重要な要件のひとつであると考ええる。

ユニバーサルデザインは、1985年にアメリカのロナルド・メイス氏により提唱されて日本に移入され、1997年には、日本人間工学会で研究が始められた。日本人間工学会は、2003年に「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」を出版し¹⁾、その中で日本におけるユニバーサルデザインの重要性を説き、「ユーザーに対して優しく魅力商品を作って欲しい」としている。

また衣生活においては、「年齢・体型・サイズ・障害等にかかわらず、誰もがファッションを楽しめる社会」を目指して、1998年にユニバーサルファッション協会が設立された。2002年には、衣服のみならず、ファスナーやボタン等の付属品も含めた「第一回ユニバーサルファッション展」も開催された。そして、近年、ユニバーサルデザイン衣服の研究も進められている^{2)～4)}ものの、現状は十分であるとは言い難い。

このような状況において、筆者らは、1999年に岡山県下全域225の高齢者入所施設において、高齢者の

衣服についての実態調査⁵⁾を行った。その結果と施設入所高齢者、介護職員の要求を加味し、2000年から、高齢者にとって性能および機能性が高く、心理的に着心地の良い衣服の製作を目的に、高齢女性の日常着としてのポロシャツ（通称ミポロ）の研究・開発に取り組んできた⁶⁾。そして、2004年からミポロの更なる研究・開発を進め、ユニバーサルデザインポロシャツ（以降UDミポロとする）の提案を行ってきている^{7)～9)}。

本報では、これまでの研究を基にさらに研究を深めた結果について報告する。

方 法

1. UDミポロ10号の改善点

前報⁹⁾ではUDミポロ10号の袖丈について、七分袖と六分袖を提案したが、検討の結果、七分袖と以前から要望のあった半袖（五分袖）を製作することとした。カラーは、昨年製作した中で、あまり人気がなかったサックスを取りやめ、ベースカラーをピンク、白の2色とし、白については、昨年同様襟とカフスの色を変えた3色の4種類を製作した。

2. UDミポロ10号の評価

これらの2種類の袖丈と、昨年製作した長袖のUDミポロを、2007年10月3日から5日にかけて行われ

た第34回国際福祉機器展に展示・発表して意見を聴取した。今回の意見聴取は、この会場で特に興味を示してくれた男性1人を含む5人から伺った。

3. UD ミポロの縫製

これらの製作は、岡山県北の縫製業者に依頼した。

結果ならびに考察

1. UDミポロ 10号七分袖、半袖の製作と展示・発表

- (1) UD ミポロ 10号七分袖、半袖の製図を図1に示す。
- (2) この製図を基にUD ミポロを製作した。七分袖、半袖ともに、白、ピンクをベースとしたカラーバリエーションは4種類となった。その写真を図2に示す。使用布地、付属は昨年と同様⁹⁾のため、素材、性能試験結果は省略する。
- (3) 2007年10月5日から7日にかけて東京ビッグサイトで開催された第34回国際福祉機器展に展示・発表し、着装してもらって意見を聴取した。
- (4) 本年度は、岡山県総合福祉会館・ボランティア・NPO会館（きらめきプラザ）やテクノサポート岡山にも展示をしている。また、年間3万人が訪れる兵庫県神戸市にある兵庫県立総合リハビリテーションセンターにも、「おしゃれで着やすいポロシャツ」として展示されている。さらに、2007年11月2日から6日にかけて、「第19回全国生涯学習フェスティバル」（まなびピア岡山2007）のメイン会場である桃太郎アリーナの「生涯学習見本市」に展示した。
- (5) 11月11日に茨城県結城市で開催された「第20回全国健康福祉祭いばらき大会」（ねんりんぴっく茨城2007）のUDファッションショーにおいても、筆者が開発しているUDエプロン（ミブロン）を上に着用して、「ラグラン袖で釦も1.5cmと大きく、前明きも長くて着脱しやすい」ものとして紹介され、多くの観客の拍手をあび

た。その写真を図3に示す。このUDファッションショーでは、スポーツ用品販売大手のデサントが、ユニバーサルファッション協会と共同開発し来春販売予定のポロシャツ（半袖）を、「伸縮性が抜群で着やすい」と説明をつけ発表した。

2. 国際福祉機器展における評価

昨年製作した長袖と、今年製作の七分袖、半袖を、第34回国際福祉機器展で展示し、聴取した意見から得られた評価結果をまとめると次の通りであった。

- (1) 色・柄については、「白はどこでも売っている」「ピンクは若々しい」とのことであった。
- (2) 袖丈は、「長袖、半袖は多いが七分袖はあまりないので良い」との評価があった。また半袖は、施設で働いている人にとっては「年中着られる」と好評であった。
- (3) 75歳の男性からは、「男性用が無いのは残念であるが、釦の大きいのは、手がもとおらなくなるので良い」との意見があった。
- (4) 19歳の女性からは、「デザインがかわいい」と評価された。
- (5) 「脇のスリットは良いが、前後差をつけたほうが良い」との要望があった。
- (6) 60歳代の介護職の女性からは、「市販されているポロシャツのラグラン袖は着せにくい」との意見があった。

今回の展示において試着してもらうことはできなかったが、昨年同様、デザインやカラーに対する評価は若い人から高齢者まで高く、昨年の要望でもあった七分袖、半袖の評価も好評であった。「ラグラン袖は着せにくい」との意見に対しては、UD ミポロは市販されているポロシャツに比べて前明きは2倍以上長く、袖幅も45.5cmと広くとってある。そして、使用生地は伸張弾性率はウェール、コースともにかなり高く伸びが良いので、市販のものとは異なり、着脱に関してもかなり楽であると考えた。

また、昨年購入してくれた車イス使用の70歳代女性には、「他の市販品には無く、着やすく気に入ったの

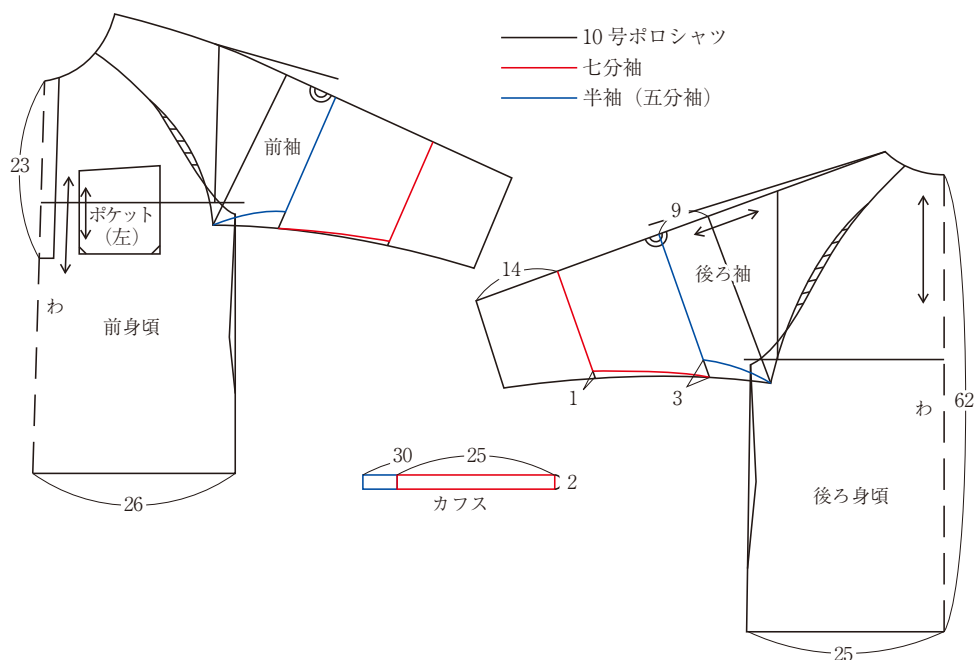


図1 ミポロ製図



図2 ミポロ七分袖・半袖



図3 UD ファッションショー

でまた来ました」と、今年は七分袖を購入してくれた。

国際福祉機器展には、今年も3日間に延べ12万人の人が訪れ、その多くの人たちの中には、胸囲が100cmを越えると思われる人もかなり見受けられた。今後は、女性用Lサイズを作る必要があると感じると同時に、男性用も考えていきたい。そして、さらに調査の範囲を広げたいと思う。

3. 他の展示に対する評価

きらめきプラザ、テクノサポート岡山には、美作大学技術交流プラザ繊維分科会（UD研究会）において開発した他のUD商品と共に展示してあるが、直接意見を聞いていないため評価は不明である。また、それ以外の展示に対しても現在まで問い合わせ等もないが、今後は少しでもその意見を聴取し、改良点があれば改善をしていきたいと考えている。

まとめ

本研究は、2000年から高齢女性用として研究、開発してきたミポロを、一昨年からより幅広く多くの人たちに着用してもらえるような「UD ミポロ」の開発を目的に行ってきた。今回の研究においては、次のような知見が得られた。

- (1) 袖丈は、去年の長袖に加えて今回は七分袖、半袖を製作し、3種類となった。袖がラグラン袖で、セットインスリーブに比べて肩幅が固定されていないため、七分袖は「短めの長袖」あるいは「六分袖」として着用することができる。また、半袖も「五分袖」ではあるが、肩幅寸法によっては肘線の上あるいは下になり、肘が隠れることもある。これらのことから、袖丈は3種類ではあるが、おおむね半袖から長袖までをカバーできているといえよう。
- (2) 色・柄については、昨年と同様の白とピンクをベースカラーとし、襟、カフスには市松模様を使用した。市販品に比べベースカラーの2色は少ないが、白の襟とカフスの色を昨年同様に3色としたため、バリエーションは4種類となった。今後は、ベースカラーを増やし、カラーの選択幅を広げていきたい。
- (3) サイズ面においては、昨年提案を行いながら実現できなかった女子用のLサイズと男性用のサイズを考えていきたい。

UD ミポロは、2002年から高齢女性向けのポロシャツとして長年研究・開発に取り組んできたが、今回で一応の完成となる。高齢女性のみならず、一人でも多くの人たちが着用できるようにデザイン、素材、カラー、ロゴマーク等に配慮したUD ミポロとして発表するために、試着・アンケート・改良を積み重ねてきた。その結果、機能性はもちろん、デザイン性においても、一昨年製作したミポロ9号に比べて評価が高くなっている。また、袖丈を長袖、七分袖、半袖と3種類製作することにより、選択の幅が広がった。「多様なニー

ズを持つユーザ」に対して「選択の幅が広い」ということは、まさにUDであるといえよう¹⁾。しかし、カラーやサイズにおいては選択の幅が少なく、UDとは言いがたい。この点が、まず今後の課題としてあげることができると考える。

次の課題として、「いかに良い製品を作っても、それをどのように知ってもらえるか」という点があげられる。研究・開発については、コツコツと積み上げていくことで成果が得られるが、それを販売するためのノウハウは乏しいと実感している。この解決のためには、美作大学技術交流プラザUD研究会において、他の会員の指導を仰ぎながら進めていきたいと考える。

今後、UDは「まちづくり」「ものづくり」「ひとづくり」と多方面から進んでいくことになる。衣生活の面においても、日本の素材開発は世界のトップであり、その素材を使用して、「機能性」と「デザイン性」の優れたUDファッションの衣服が増えていくことを期待したい。

謝 辞

この研究を行うにあたり、ご協力くださいました美作大学技術交流プラザUD研究会の皆様には厚くお礼を申し上げます。

引用文献

- 1) 日本人間工学会編 (2003) 「ユニバーサルデザイン実践ガイド」 共立出版、東京
- 2) 田中直人、見寺貞子 (2002) 「ユニバーサルファッションーだれもが楽しめる装いのデザイン提案」 中央法規出版、東京
- 3) 山内寿美 (2002) ユニバーサルファッションのデザインー高齢者のための衣服の開発ー、繊維学会誌 58. (2) 43-45
- 4) 渡邊敬子 (2006) 被服のユニバーサルデザインのための着脱動作の解析ー平成16年度ー17年度科学研究費補助金基盤研究(C) 研究成果報告書ー
- 5) 高山真佐子、小山京子 (2000) 施設入所高齢者の衣服に

ついでの実態調査、美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要 45.51-64

- 6) 小山京子、高山真佐子 (2002) 高齢者の日常着の研究－女性用ポロシャツ－、美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要 47.37-44
- 7) 小山京子 (2005) 高齢者の日常着に関する研究－高齢者衣服をユニバーサルデザインに－、美作大学・美作大学短期大学部紀要 50.23-30
- 8) 小山京子 (2006) ユニバーサルデザインポロシャツに関する研究、美作大学・美作大学短期大学部紀要 51.25-31
- 9) 小山京子 (2007) ユニバーサルデザインポロシャツに関する研究－Ⅱ、美作大学・美作大学短期大学部紀要 52.25-3